



元気っ子

No 341 ながさわ保育園

園長

中瀬弦偉

新年あけましておめでとうございます。2026年も「子どもの最善の利益を常に最優先に」保育を実践してまいります。保護者の皆様におかれましても、どうぞご支援を賜りますようお願いいたします。

子どもの発達について、早かったり遅かったりは個人差が非常に大きいですが、順序は皆同じです。このことは当たり前のようにいて、とても大切なことなのですが、忘れられてしまうことがしばしばあります。例えば育児書などで「〇歳頃にコレコレの発達を遂げ…」など書かれていて、自身の子どもがそれより早いと安心し、遅れていると不安になることがあるかと思います。また周りのお友達と比較して同じような気持ちになることもあるかと思います。「個人差だ」と割り切るには多少の勇気も必要かもしれません、発達の順序を理解していくことが安心材料になるのかもしれません。

一般的によく言われるトイレトレーニングですが、概ね2歳頃に遂げる発達と言われています。しかし誰でも彼でも2歳になったらオムツが外れるわけではなく、0歳1歳で積み上げていく発達をきちんと順序だてて遂げていく結果として排泄の自立ができるようになります。例えば0歳1歳の時のオムツ交換の時の声掛けで、オムツが濡れている状態を「気持ち悪かったね」、新しいオムツに履き替えて「サッパリして気持ちいいね」と声を掛けていきます。すると子どもは、この感覚を「気持ち悪い」、この感覚が「気持ちいい」という風に理解をしていきます。これがお母さんお父さんからの「言葉掛け」という環境を通して発達を遂げるということです。逆にこういった言葉掛けが少ない場合には感覚の理解が遅くなる恐れがあります。

また、同時に、便意や尿意を感じて、トイレに着くまで筋肉を収縮させ、トイレで筋肉を緩めて排泄することは筋肉の動かし方を自分の意志でコントロールするということです。保育の中では「随意筋」と言いますが、この発達に向けては1歳頃からの微細運動、例えば積み木を積み上げていく作業や、お絵描き、ブロックなどがあります。つまり筋肉を自分の意志通りに動かせるようになる遊びという環境を通して、子どもは筋肉の動かし方を習得していきます。ここでも、逆にこういった遊びの環境がなければ、筋肉の動かし方の習得は遅れる恐れがあり、結果としてトイレトレーニングが遅れてしまう恐れがあります。

このように、発達の順序を踏まえるということは非常に大切だということが分かるかと思います。また、その発達に達していない状態にもかかわらず、環境を先取りして子どもの発達を促そうとすることもあるかもしれません。これについて多くの研究で弊害があることが分かっています。例えば就学前に学校教育の先取りをすることがあるかと思います。子どもが苦労しないようにという老婆心からだと思いますが、就学前にしないといけないのは、学校で習うことへの「期待感」や文字を書くにあたって点線をはみ出さずに綺麗になぞったりできる感覚の習得です。学校で習うことをすでに知っていたら、「先生の話を聞かなくても授業についていける」感覚が身についてしまい、傾聴する習慣が失われ、やがて学習に遅れが生じてしまうでしょう。

この発達の順序の大切さは是非、全ての保護者と共有したいと思います。

今月もどうぞよろしくお願いします。